

2022 年度
青山学院大学大学院
社会情報学研究科社会情報学専攻
博士前期課程(第 1 期)入学試験

コース共通

**「英語」
問題冊子**

受験番号：	氏名：
-------	-----

[注意事項]

1. 本問題冊子は表紙を含め全 3 頁、解答冊子は全 2 枚である。
2. 問題冊子及び解答用紙一枚ごとに、受験番号と氏名を必ず記入すること。
3. 解答冊子、問題冊子とも全て回収するので、綴じたままにしておくこと。

博士前期課程 コース共通
「英語」問題用紙 (2022 年度第 1 期入学試験)

問題 I 次の文章を読み、日本語に訳しなさい。

Social media use (SMU) has become a normal part of the lives of young people. Its benefits include the ability to communicate with friends, quickly access information and gain new knowledge, and stay in touch with adult mentors including parents, family members, and teachers. However, emerging^{*1} problems associated with SMU include frequent or intense use, which may detract from^{*2} opportunities to participate in other constructive activities, such as extracurricular^{*3} and community events.

A recent international study concluded that although statistically significant, the effects of exposure to digital technology on adolescent^{*4} well-being are modest and, in the authors' opinions, "insufficient to invoke^{*5} the need for policy change." In contrast, others have argued that "problematic SMU" (indicated by symptoms of addiction to social media) puts adolescents at risk for problems because it facilitates^{*6} potential risky online interaction with strangers with harmful intentions and contributes to addictive behaviors, social withdrawal, and impaired^{*7} social functioning.

Repeated exposure to online aggression can make the behavior seem more acceptable through role modeling and reinforcement^{*8}. Witnessing^{*9} the social rewards of aggression^{*10} or cyber-bullying^{*11}, such as increased social status, also reinforces the behavior, as young people become motivated to conform^{*12} to group norms in their social environment. In addition, the lack of face-to-face cues associated with SMU hides the negative consequences of online aggression or cyber-bullying. Therefore, without this critical feedback, the aggressive behavior may be more likely to recur.

Furthermore, repeated exposure to online aggression or bullying may result in the "disinhibition^{*13} effect." That is, these aggressive behaviors may become normalized^{*14} to youth over time. Such effects are likely to increase the likelihood of engaging in cyber-bullying or being cyber-victimized. In addition, those who use electronic communications excessively may be differentially^{*15} vulnerable children, who experience psychosocial^{*16} problems such as loneliness and social anxiety.

語注

emerging^{*1} 現れる、 detract from^{*2} ~を減じる、 extracurricular^{*3} 課外の、 adolescent^{*4} 青年期の、 invoke^{*5} ~を引き出す、 facilitates^{*6} 促進する、 impaired^{*7} 正常に機能しない、 reinforcement^{*8} 強化、 witnessing^{*9} ~を目撃すること、 aggression^{*10} 攻撃、 cyber-bullying^{*11} ネットいじめ、 conform^{*12} 従う、 disinhibition^{*13} 脱抑制、 normalized^{*14} 標準になる、 differentially^{*15} 特異的に、 psychosocial^{*16} 心理社会的な

問題Ⅱ 次の質問に英語で答えなさい。

What do you think about the social changes that COVID-19*¹ has triggered? Write your thoughts in at least 10 sentences in English.

語注

COVID-19*¹ 新型コロナウイルス感染症

2022 年度
青山学院大学大学院
社会情報学研究科社会情報学専攻

博士前期課程(第 1 期)入学試験

社会情報学コース

「小論文」 問題冊子

受験番号：	氏名：
-------	-----

[注意事項]

1. 志願したコースの問題冊子であることを確認すること。
2. 本問題冊子は表紙を含め全 3 頁、解答冊子は全 2 枚である。
3. 問題冊子及び解答用紙一枚ごとに、受験番号と氏名を必ず記入すること。
4. 解答冊子、問題冊子とも全て回収するので、綴じたままにしておくこと。

博士前期課程 社会情報学コース
「小論文」問題用紙（2021 年度第 1 期入学試験）

【問 題】

内閣府の政策において，我が国が目指すべき未来社会の姿として Society 5.0 が提唱されており，その実現によって経済発展と社会的課題の解決の両立を目指しています（資料 1）。

大学の講義や卒業研究等であなた自身が得た知識・技術，あるいは大学院で目指す研究が，この Society 5.0 とどのように関係するのか具体的に論じなさい。（1000 字程度）

経済発展と社会的課題の解決を両立するSociety 5.0へ

我が国そして世界を取り巻く環境は大きな変革期にあるといえます。経済発展が進む中、人々の生活は便利で豊かになり、エネルギーや食料の需要が増加し、寿命の延伸が達成され、高齢化が進んでいます。また、経済のグローバル化が進み、国際的な競争も激化し、富の集中や地域間の不平等といった面も生じてきています。これら経済発展に相反（トレードオフ）して解決すべき社会的課題は複雑化してきており、温室効果ガス（GHG）排出の削減、食料の増産やロスの削減、高齢化などに伴う社会コストの抑制、持続可能な産業化の推進、富の再配分や地域間の格差是正といった対策が必要になってきています。しかしながら、現在の社会システムでは経済発展と社会的課題の解決を両立することは困難な状況になってきています。

このように世界が大きく変化する一方で、IoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術の進展が進んできており、我が国は、課題先進国として、これら先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会であるSociety 5.0の実現を目指しています。



図1-1-1

資料1 Society 5.0

(出典: 内閣府ウェブページ https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/ 一部抜粋)

2022 年度
青山学院大学大学院
社会情報学研究科社会情報学専攻

博士前期課程(第 1 期)入学試験

ヒューマンイノベーションコース

「小論文」 問題冊子

受験番号：	氏名：
-------	-----

[注意事項]

1. 志願したコースの問題冊子であることを確認すること。
2. 本問題冊子は表紙を含め全 2 頁、解答冊子は全 2 枚である。
3. 問題冊子及び解答用紙一枚ごとに、受験番号と氏名を必ず記入すること。
4. 解答冊子、問題冊子とも全て回収するので、綴じたままにしておくこと。

博士前期課程 ヒューマンイノベーションコース
「小論文」問題用紙（2022年度第1期入学試験）

以下に示す□1～□2から1つを選び解答せよ。解答用紙の1行目には選択した問題の番号を記入すること。解答についてはそれぞれの問いの指示に従うものとする。

1

職場や地域やその他の集団でおこなわれる、トップダウン的な意思決定と、ボトムアップ的な意思決定との間の違いと、それらトップダウン - ボトムアップの間でどのような齟齬が生じやすいか、具体例を交えながら論ぜよ。また、そのような齟齬はいかにして乗り越えることが可能かも論ぜよ。

2

学習とアイデンティティの関係について、具体的事例に言及しつつ説明しなさい。